

ペリー来航 1

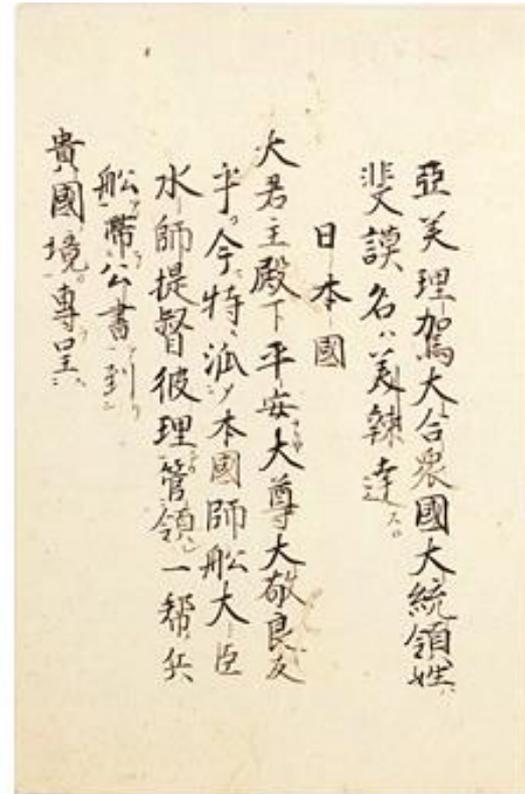
アメリカは、清(中国)との貿易や捕鯨(ほげい)の中継地として日本を開国させようと考えた。



ペリー艦隊の航路

ペリー来航 2

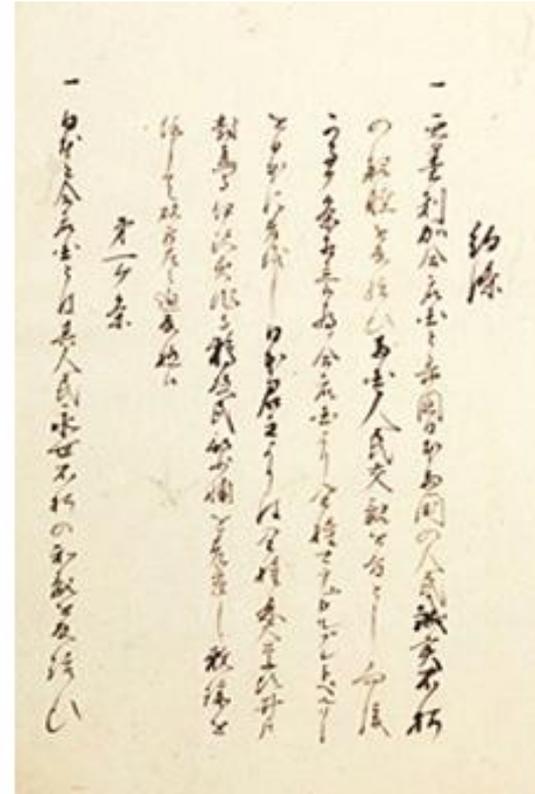
1853年、東インド艦隊司令長官のペリーは4隻の軍艦で浦賀に入港した。ペリーは日本の開国を求めるアメリカ大統領フィルモアの国書を提出し、開国を求めた。



「合衆国書翰和解」【三条家文書2-22】
嘉永6(1853)

ペリー来航 3

幕府は、広く大名たちに意見を聞いたが、開国への賛成と反対でまとまらないまま、1854年に再び来航したペリーの強い態度に押され、日米和親条約(にちべいわしんじょうやく)を結んだ。



「日米和親条約写」【三条家文書3-49】
安政元(1854)

ペリー来航 4

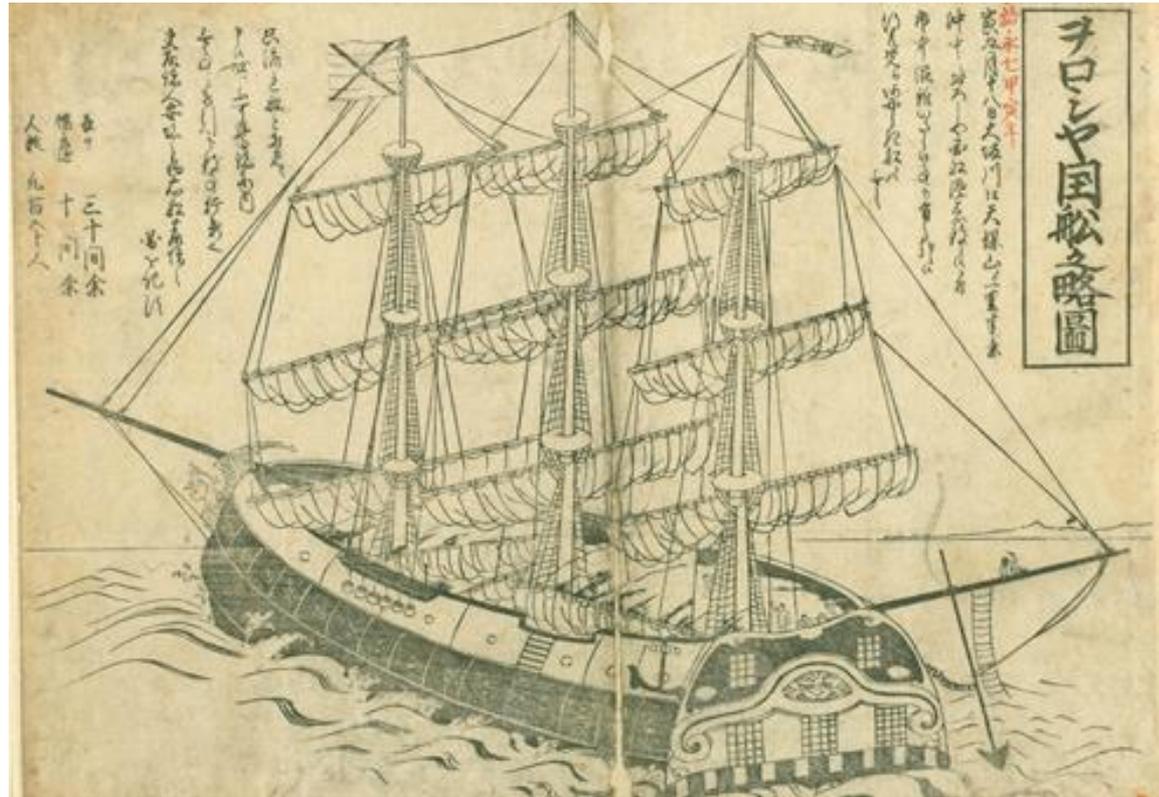
長州藩の吉田松陰(よしだしょういん)は、黒船に乗り込みアメリカに密航することを企てたが、見つかり捕まった。ペリーが書いた『日本遠征記』には松陰のことが記されている。



ペルリ著 鈴木周作抄訳『ペルリ提督日本遠征記』大同館
大正元(1912)【291.099-cP46p-S】

ペリー来航 5

ペリー来航と同じ1853年、ロシアのプチャーチンらが長崎に来航し、日本との条約締結を申し出た。



『ヲロシア国船之略圖』18--【寄別7-5-1-5】

ペリー来航 6

ロシアのプチャーチンらは、1854年に下田で安政の大地震による津波に遭遇して、一旦交渉を中断したが、1855年に日露和親条約(にちろわしんじょうやく)を締結した。幕府は、アメリカやロシアのほか、イギリス、オランダとも和親条約を結んだ。

「日露和親条約写」【三条家文書3-50】
安政元(1854)